

## 宿題でつくり始めた歌だけど そこにかがやくあの日の景色

短歌のルールは大きくは1つ、

**5 + 7 + 5 + 7 + 7 = 31音に収めるだけ。**

俳句のような「季語（きご）」は不要、  
話し言葉（口語）でももちろんOK、  
少しくらい多くなっても（字余り）構いません。

かたちはあとから整えられるので（推敲<sup>すいこう</sup>）  
まずは、最近一番印象的だった出来事を  
短歌にしてみましょう。

うれしいこと、たのしいことだけではなく、  
かなしいこと、くやしいこと、あるいは  
自分でもわからない気持ちでも短歌になります。  
このときのポイントは、「たのしい」「かなしい」  
という言葉ができるだけ直接使わずに、  
その心境や状況を表現することです。

かの時に言ひそびれたる  
大切な言葉は今も  
胸にのこれど

たくぼく  
石川啄木

街路樹のひとつひとつを見て歩き  
どれもオレより孤独とおもう

よしお  
工藤吉生

金曜の六時に君と会うために  
始まっている月曜の朝

たわらま ち  
俵 万智

小鳥きて少女のやうに身を洗ふ木かげ  
の秋の水だまりかな

与謝野晶子

短歌をつくろうとしたとき、歌を届けたい人の顔が思い浮かぶ人は、その人に伝わるかどうかを想像してつくってみてください。思い浮かばない人は、自分が最初の読者になった気分で、歌の意味がわかるか確かめてみてください。

短歌は詩や小説と違い、31音しかありません。言いたいことをあれこれと詰め込みすぎないで、できるだけシンプルな構成にしてみましょう。

なんとなくできたら、つくった短歌を声を出して読んでみましょう。読みにくかったりリズムの悪いところは、別の言葉に置き換えたり順序を変えてください。これが推敲です。

最後に、誤字・脱字のチェックをして、  
ていねいな文字で書いてくださいね。

なーんにも思いつかない人は、あたりを見回して、5音や7音になる言葉を拾ってみてください。そこから短歌が生まれるかもしれませんよ。

与謝野晶子倶楽部青春の短歌大会最新情報など  
与謝野晶子倶楽部HPはこちらから